



《奥津軽駅を拠点としたモデルコース》

遺跡探検コース

古代～中世の歴史の風を感じながら巡るプラン

- ①奥津軽駅
↓(10km・車15分)
- ②大山ふるさと記念館
(大平山元 I 遺跡)
↓(18km・車25分)
- ③福島城跡
↓(1km・車1分)
- ④オセドウ貝塚
↓(2km・車2分)
- ⑤山王坊遺跡
↓(4km・車5分)
- ⑥唐川城址
↓(6km・車9分)
- ⑦中の島ブリッジパーク
↓(5km・車8分)
- ⑧十三湊遺跡
↓(17km・車25分)
- ⑨ベンセ湿原
↓(13km・車20分)
- ⑩縄文住居展示資料館 (カ)
↓(1.3km・車1分)
- ⑪JR木造駅



⑧十三湊遺跡
安藤氏や家臣たちの館跡、町屋、寺院跡などがある。鎌倉時代、安藤氏の水軍の基地があり、アイヌと重要な交易拠点でもあった。水戸口には、航行の守護神を祀り、灯台の役目も兼ねた神社があり、現在も漁業関係者の信仰を集めている。



縄文海進と古十三湖
十三湖は、6千年ほど前の縄文前期は気温が高く、海岸線が内陸部へ湾入する「縄文海進」が進み、ピーク時には五所川原の方まで広がっていた。これを「古十三湖」といい、それを囲む丘陵部分に人々が定住し、貝塚や遺跡が増えていった。オセドウと石神は地理的に離れているが、ヤマトシジミを主体とする貝塚や埋葬された人骨、円筒土器などの共通点が多い。

⑨ベンセ湿原 (23ha)
東京ドーム約5個分もある湿原。6月にはニッコウキスゲが咲き乱れ、黄色のじゅうたんが広がる。この時期にしかない定期観光バスツアーは、ボランティアガイド付き
問い合わせ つがる市観光協会
Tel 0173-42-2111



⑩縄文住居展示資料館カルコ
世界的に有名な遮光器土偶が発掘された亀ヶ岡遺跡。縄文時代の生活ぶりや復元された竪穴式住居を展示。
観覧料200円(休館日 月曜日)



②大山ふるさと記念館
〔大平山元 I 遺跡〕
国内最古級の土器の出現をもって、「縄文のはじまり」とされているが、その最初の土器が、推定16500年前の大平山元 I 遺跡である。特徴は縄の文様や装飾のない無文のもの。現在、国指定史跡に向けて答申中。縄文遺跡群は狩猟・漁労・採集など自然と人間が共生していたことを示す独自性が世界遺産に相当する価値を持つとされ、「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」の世界遺産登録を目指している。入館無料(休館日 月曜日)



③福島城址
福島城址は、一部自然の沢を利用した1辺が1キロもある三角形の外郭と200メートル四方の内郭の二重構造になっている。外郭は、大規模な土塁と堀跡があり、今は遊歩道が整備されていて陸路の関所であった門跡や井戸跡まで巡ることができる。内郭は、近年の発掘調査で中世の武家屋敷跡や「主殿」とみられる大型の建物群や池跡が見つかり、豪族・安藤一族の居城といわれている。



④オセドウ貝塚
現在、神明宮が鎮座する境内全域にオセドウ貝塚がある。縄文時代に形成されたヤマトシジミを主体とする貝塚で、人骨や円筒土器も発見されている。

⑤山王坊遺跡
伝承「十三千坊」の一つ、阿吽寺があった。ここは、寺院として特徴のある仏堂跡や墓、五輪等や板碑、神社として特徴のある拝殿や本殿、舞台跡があり神仏混淆時代の宗教施設であったとされる。南部氏に侵略された安藤氏が再び十三へ帰還し、再起をかけて日吉大社を勧請し、神社として整備したといわれている。



⑥唐川城址
安藤氏が南部氏に攻められ、安藤氏が最後に立てこもった詰の城とされている。また、安藤氏の時代より古い年代の井戸跡、精錬炉跡なども発見されている。
標高160mの高さにあり、西浜一帯を一望できる。

⑦中の島ブリッジパーク (※4月～11月は無休)
250メートルのひば造りの中島遊歩道橋をわたると、市浦歴史民俗資料館があり、北方交易の拠点であった中世の湊町「十三湊」遺跡からの出土品や外洋船模型などを展示している。その他ケビンハウスやレストラン、しじみ採りも出来る。